

# 議 事 録

件 名		第1回 町田市下水道ビジョン策定懇談会
日 時		2010年11月17日(水) 9:00～11:00
場 所		本庁舎 地下 特別会議室
出席者 (敬称略)	委 員 *:会長	高千穂 安長委員*、長岡 裕委員、松本 暢子委員、 市古 太郎委員、盛永 久恵委員、松田 英行委員、 石川 旭委員、渡辺 洋委員
	上下水道部	鈴木部長、工務課 福田課長、業務課 石井課長、 水質管理課 細野課長、水再生課 河原課長
	事 務 局	上下水道総務課:小山課長、須原担当課長、川畑係長、 町田主査、保屋野、野沢、福田
次 第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市長挨拶</li> <li>2 委嘱式</li> <li>3 委員の自己紹介</li> <li>4 会長の選出</li> <li>5 懇談会の役割</li> <li>6 町田市下水道事業の概要</li> <li>7 下水道ビジョンの目的</li> <li>8 その他(懇談会スケジュール)</li> </ol>	
議 題		
<b>次第 1 委嘱式</b>		
報告内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■石阪市長が各委員に委嘱状を手渡す。</li> <li>■懇談会に先立って、市長が挨拶。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成25年度には市街化区域の汚水整備がほぼ完了する予定で、市民の下水道への関心も薄れていく状況にある。しかしながら、まだまだ大きな課題(以下、3点)を抱えている。</li> <li>①汚水先行で進めたため、雨水の整備が遅れている。</li> <li>②東京湾に負のストック(ヘドロ等)が溜まっている中、公共用水域の水質向上に疑問もあるが、処理水質の向上をどのように進めるか。</li> <li>③一般会計が苦しい中、起債の返還や水質の向上等への投資もしなければならず、下水道への繰出金をどうするか。</li> </ul> </li> <li>・これらの問題は長期的な視点で議論する必要がある、皆様の専門的な知識を拝借し、下水道の将来構想を定めて行きたい。</li> </ul>	
<b>次第 2 委員の自己紹介</b>		
報告内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■各委員が自己紹介を行った。</li> </ul>	
<b>次第 3 会長の選出</b>		
報告内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■長岡委員の推薦で高千穂委員が会長となった。</li> </ul>	

#### 次第 4 懇談会の役割

報告内容

- 事務局より、懇談会の役割等について説明を行った。

#### 次第 5 町田市下水道事業の概要

報告内容

- 事務局より、町田市下水道事業の概要について説明を行った。

意見等

- 管渠の整備に対する国庫補助率は汚水・雨水ともに5割なのか。  
→管渠はともに5割である。処理場等の整備については考え方が異なる。
- 汚水の整備状況を表す指標として普及率があるが、雨水の場合の指標は計画に対する整備延長の割合になるのか。浸水被害等を考慮して、計画を見直すこともあるのか。  
→雨水については、整備計画上の延長に対する整備済み延長で表している。浸水被害等の発生履歴を踏まえ、見直しすることもあり得る。
- 事業概要を見ると、昨年度の管渠建設費は43億円のうち41億円を新都市建設公社に業務委託しているが、市では工事はほとんど行っていないということか。  
→過去には市で工事を行っていたが、現在は委託しているのが実情である。
- 幹線と枝線の定義は何か。  
→流入してくる面積が20ha以上の場合が幹線で、それ以外が枝線である。
- 未整備地域の住民から下水道整備の要望は無いのか。  
→要望はある。市では平成25年度までに相原地区の西部までを整備する事業計画を立てており、それを住民にも周知している。市街化調整区域については、事業計画を立てていないため、整備の目処が立っておらず、住民にもそのように伝えている。  
ただし、北部丘陵の住民や河川・水路周辺住民から整備要望はある。
- 鶴見川の水質は平成17年から19年にかけて悪かったのはなぜか。また、どのような改善策をとったのか。  
→放流水中の総りん濃度が高くないよう安全を考慮した運転をした結果、総窒素中のアンモニア性窒素由来のBODにより高い値となってしまった。改善策として硝化を促す運転手方を行い、アンモニア性窒素由来のBOD値は改善されている。
- 硝化とはどのようなことか。また、窒素由来によるBODが高くなるのはなぜか。  
→硝化とは、総窒素を除去する過程で、下水中のアンモニア性窒素を硝化菌の働きにより亜硝酸性窒素、硝酸性窒素にする反応。下水処理水のBODを測定する場合、有機物の分解時他に、アンモニア性窒素が硝化する過程で消費される酸素量も測定されるため、BODを高め評価してしまうことになる。
- 雨水は汚水同様に処理を行うのか。  
→町田市は分流方式であるため雨水は処理の必要がなく、そのまま河川に放流している。  
なお、自治体によっては、地形的問題でポンプを設置するところもあるが、町田市は地形的にポンプを設置する必要が無いため、自然流下で河川に放流している。

#### 次第 6 下水道ビジョンの目的

報告内容

- 事務局より、下水道ビジョンの目的について説明を行った。

意見等	<p>■計画の名称に「ビジョン」という言葉を用いているが、一般的に使われている「長期計画」や「マスタープラン」などとどう違うのか。 →町田市では、下水道の長期計画を「下水道ビジョン」と呼んでおり、意味は同じである。</p> <p>■あえて「ビジョン」という言葉を用いたのは、他の計画と差別化を図りたかったからか。 →計画期間が概ね30年と他の計画と比べ長期なものとなっており、「ビジョン」とした。計画期間が長いのではという議論は市内でもあったが、下水道施設の耐用年数が50年以上であることや整備にも時間がかかることから概ね30年の計画とした。</p> <p>■下水道ビジョンの上位計画は何か。 →下水道計画における上位計画は、東京都が策定した「多摩川・荒川等流域別下水道整備総合計画」や「東京都汚水処理施設整備構想図」がある。</p> <p>■市街化区域の下水道整備完了後は、市街化調整区域に下水道を拡大する方針となっているが、人口減少や高齢化社会を考慮して計画を策定しているのか。 →現在策定中の都市計画マスタープランでは、市街化調整区域で大きな見直しは予定されておらず、人口の大きな変化は無い。この計画と整合を図りながら、効率的な手法で進めていきたいと考えている。</p> <p>■「安定した下水道経営」をうたっているが、その考え方・方針をどの様に考えているのか。 →現在及び将来の下水道利用者の満足度を上げることが大事だと考えており、そのためにも「安定した経営」を目指し、ニーズの高いものから投資を集中しつつ、起債残高を減らしていく必要がある。 下水道施設は何世代もが利用するものであり、企業で言えば破産しないよう、安定した経営状態で未来につないでいきたいと考えている。</p> <p>■下水道整備によって発生する費用と便益を、もっと市民にわかりやすく説明するとよいと思う。</p>
<p>次第 7 その他(懇談会スケジュール)</p>	
報告内容	<p>■事務局より、懇談会スケジュール等について説明を行った。</p>
意見等	<p>■ビジョン策定にあたっては、財政面を考慮してトップダウンで決める必要性も理解するが、現場の声をボトムアップで計画につなげていくことも重要である。</p>